

# 市議会の定数が 22 人に削減



令和 3 年 12 月に 11 人の議員から提出された生駒市議会の議員定数を 24 人から 22 人に削減する条例改正案が令和 4 年 12 月定例会で可決しました。生駒市議会の定数は昭和 46 年の市制施行以来ずっと 24 人でしたが、今年 4 月の市議会議員選挙からは 22 人で執行されます。

## ■4 年前と動向は変わらず。

定数削減の提案理由に挙げられた人口減少、公共施設の更新費用や高齢化に伴う社会保障費の増大が見込まれる中での経費削減の必要性、市民ニーズ、他議会の定数削減の波は、いずれも 4 年以上前からすでにその動向は見られたものです。4 年前の直接請求による定数条例の改正案に対しては、行政監視機能の低下を招く、多様な意見や少数意見を反映できなくなるという理由で反対していた議員らが、今回は提案者にまでなって積極的に賛成に転向したのは不可解で、説明責任が求められます。

## ■賛成者の誰も議会改革の提案なし

塩見は、定数を削減して議会機能の低下を招くようなことはあってはならないと終始主張し続けてきました。「身を切る改革」は耳に心地いいですが、その削減コストが政策効果のないイベントやお友達採用

の人件費に消えては元も子ありません。しかし、この任期中、賛成者の中に議会機能の向上に向けて提案をした者はおらず、市民からの預かり物である議席を軽んじていると言わざるをえません。(右下のグラフをご参照ください。議会改革は平均以下でも平気なのでしょうか。)議会の活動の成果が市民に見えていないことが定数削減論に繋がっているのに、ここを改めることなく数だけ減らしても、この連鎖は続きます。

## ■なぜ少数意見が大事なのか？

「Majority Rule, Minority Rights (多数決の原理と少数派の権利)」が民主主義の原則とされます。少数者であっても基本的人権は尊重され、多数派によって奪われてはなりま

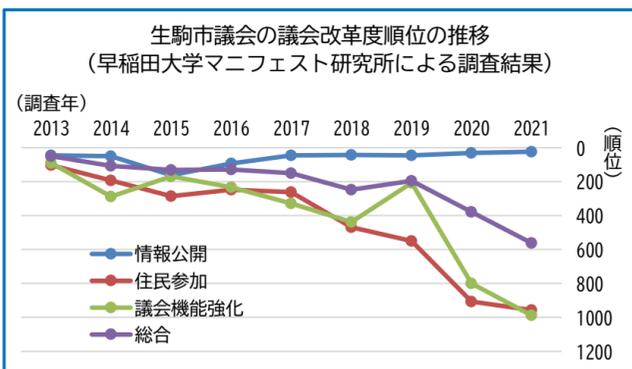
### ■定数条例の改正条例案の採決結果

※吉村議長は議決に加わりません。

賛成	福中・白本 (以上 凛翔絆)、成田・恵比須・山下 (以上 生駒市議会公明党)、松本・改正 (以上 大樹)、梶井・中尾・中嶋 (以上 緑生)、吉波 (市民ネット) 山田 (国民民主党) 沢田・片山・神山・加藤 (以上 無会派)
反対	浜田・竹内 (以上 日本共産党)、上村 (立憲民主党)、塩見 (無会派)

議案の提出者は青字で記載。提出者に名前を連ねた伊本副議長(無会派)は欠席。名前の下に赤線を引いた議員は 4 年前には定数削減に反対。

せん。政策は、現行制度の網から漏れた少数者の困りごとから生まれます。財政が許す限り、民主主義を維持するための必要コストとして議員数は保つべきですが、その困りごとに寄り添って政策を提案できる議員を選ぶのは有権者の皆さんです。



# 著しい監査の質の低下

## 職員の職務専念義務違反に係る監査請求を棄却

いこま市民パワー株式会社 (ICP) の卸電力の価格交渉やコミュニティサービス商品の置き配バッグ OKIPPA 導入の折衝など、本来 ICP の職員がやるべき業務を市の SDGs 推進課職員が行っていたことは職員の職務専念義務違反にあたり、職務命令を行った市長等に対し、市職員が ICP の業務に携わった時間相当分の給与を市に返還するよう監査請求していましたが、年末 12 月 28 日に請求棄却との結果が出ました。

監査結果はこちら▶

監査結果は、行政組織規則に定める SDGs 推進課の事務分掌「いこま市民パワー (株) との連絡調整」、「環境モデル都市に係る企画、調査及び連絡調整に関すること」にあたり、「すべて公務である」との市の弁明を鵜呑みにし、業務の一つ一つについて弁明の妥当性の分析、公務と判断した具体的理由は一切書かれていません。また、卸電力

の価格交渉は、市職員は ICP 職員より多くの相手と交渉しているのに、ICP の業務を補助的に行ったに過ぎないと認定するなど矛盾も見られ、ずさんです。監査結果に到底納得できず、職員が ICP の業務に従事していた給与等の相当額を ICP に請求するよう市長に求め、1 月 25 日に奈良地裁に提訴しました。

## 市政を語ろう!

サロン ド し お み

### 茶論・de・403

日時：2月 19日(日)  
13:30~15:30

場所：生駒市南コミュニティセンターせせらぎ  
セミナー室302・303

どなたでもご参加いただけます。(参加費無料)  
新型コロナウイルス感染症対応のため、当日、ご連絡先のご記入をお願いしています。ご協力をお願いいたします。



## 編集後記

●会派ではなく塩見まきこ単独の議会報告ニュースを作成するようになって 47 回目の発行になります。バックナンバーを塩見まきこ公式ホームページからお読みいただけます。(下記の QR コードからもアクセスできます。)●紙面には限りがあるので、各記事の見出し横に付した QR コードから塩見のブログも合わせてお読みいただければ幸いです。



塩見 牧子



blog



Facebook



Twitter



バックナンバー



ご意見はこちらへ

“まっすぐ”が通る生駒に!

# し お み 塩見まきこ

市議会 newsletter 2023 年 / 冬号



奈良交通バス富雄庄田線の学研北生駒駅~俣示・生駒北スポーツセンター間の廃止問題が浮上し、公共交通空白地域となるおそれのある高山狭戸バス停付近の集落。

## Contents

- Page2 異なる「水事情」、企業団は少数意見を反映できるか？ 奈良県域水道一体化解決策がイベントとコミュニティ！？ 奈良交通バス廃止・減便問題
- Page3 単身高齢者やひとり親、低所得者への居住支援を成年後見人の報酬助成制度がさらに拡大
- Page4 市議会の定数が 22 人に削減 著しい監査の質の低下 茶論・de・403 / 編集後記

塩見牧子(しおみまきこ) 1965 年 3 月 8 日大阪生まれ。1972 年に生駒に移り住む。生駒東小学校、緑ヶ丘中学校、京都女子高等学校、同大学卒業。同大学大学院文学研究科修了。会社員、学校図書館司書、中・高非常勤講師を経て 2007 年 4 月、生駒市議会議員に初当選。①将来世代に元気なまちのバトンを渡す、②誰もが生きづらさを感じることなく暮らせる共生社会をつくる、③フェアで市民本位の市政運営を築くための取組みやしくみづくりの提案を活動公約としています。

塩見まきこのプロモーションビデオ(PV) “まっすぐ”が通る生駒に!

